あいち国際芸術祭(仮称)
基本構想

平成 20 年 3 月

愛知県

は　じ　め　に

文化芸術は、人間の自由な発想とその表現により、一人ひとりのかけがえのない個性を実現するとともに、感動や感銘の分かち合いを通じて人と人とをつなぎ、温もりのある地域社会の形成に資するなど、真に心豊かな社会の根幹をなし、ひいては、世界平和の礎ともなるものです。

世界･未来に向けた“愛知発”の文化芸術の創造と展開をめざし、昨年 12 月に策定した「文化芸術創造あいちづくり推進方針」では、2010 年(平成 22 年)の初回開催をめざす国際芸術祭を、文化芸術政策全体を推進するための先導的な役割を担う取組として位置づけています。

愛知から世界へ発信する国際芸術祭を地域が一体となって創り上げ、継続的に開催することにより、この地域の文化芸術を活発化させ、経済面のみならず文化芸術面でも世界に貢献し、国際社会から真に尊敬される魅力的な地域づくりにつなげてまいりたいと考えています。

この基本構想は、国際芸術祭の基本的なフレームとして、これまでシンポジウム、ワークショップなどを通じて、芸術関係者、県民の皆様、更に、NPO、企業、有識者等からいただいた幅広いご意見を踏まえ、取りまとめたものです。

今後、国際芸術祭の実行委員会を立ち上げ、更に検討を深め、具体化を図ってまいりますので、関係の皆様方の一層のご理解、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成 20 年 3 月

愛知県知事　神田真秋

目　　次

Ⅰ　基本的な考え方 1
1　開催意義 1
2　開催目的 2
Ⅱ　主催者、開催時期、会場等 3
1　主催者 3
2　開催時期 3
3　会場等 3
Ⅲ　事業構想 4
1　展開方向 4
(1)　創造･発信 4
(2)　普及･教育 4
(3)　祝祭的展開 4
2　主な展開内容 5
(1)　創造･発信 5
(2)　普及･教育 6
(3)　祝祭的展開 6
3　展開イメージ 7
Ⅳ　推進体制 9
1　運営主体(主催者) 9
2　芸術監督 9

Ⅰ　基本的な考え方

1 開催意義

文化芸術は、人々の創造性や感性を育み、表現力を高めるとともに、他者との感動や感銘の共有を通じて、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れ共に生きる社会の基盤の形成に資するものであり、ひいては、世界の平和にも寄与するものです。

近年、社会経済の急速なグローバル化に伴い、世界的な相互交流が一層進む中で、文化芸術は、一人ひとりがかけがえのない個性や自分らしさを実現し、新たなライフスタイルを創出するなど、各国・地域の文化が多様に発展していくための源泉として、ますます重要となっています。

愛知は現在、経済面において日本、世界をリードする一大産業拠点にまで発展を遂げましたが、経済力と並ぶ車の両輪としての文化芸術面においても、世界に向けた創造力、発信力を一層強化していくことが求められています。

愛知では、2005年に世界と直結する中部国際空港が開港し、また、同年に開催された2005年日本国際博覧会(愛知万博)は、人と文化の壮大な交流を通じて、文化芸術に対する関心の高まりや、NPO(民間非営利組織)・ボランティア活動への参加気運の広がりなど、様々な成果をこの地域にもたらしました。

また、とりわけ愛知には、美術館とともに、オペラハウス機能をもつ大ホールやコンサートホールなどを兼ね備えたわが国屈指の大規模複合施設である愛知芸術文化センターがあり、その開館から15年間に及ぶ活動の蓄積があります。

2010年の初回開催をめざす国際芸術祭は、そうした国際文化交流

の豊富な基盤やノウハウ、また、世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積、更には、様々な文化芸術資源を有する愛知が、それらを十分に活かしながら、新たな芸術の創造･発信などの展開を図ることにより、経済面だけではなく、文化芸術面でも日本、世界に貢献していくものです。

国際芸術祭の開催は、世界の文化芸術の発展への貢献とともに、県民一人ひとりの創造性や感性などを育み、その個性や自分らしさの実現や、文化芸術を担い支える人づくり、更には、新しいビジネススタイルの創出などの契機となるものです。

また、継続的な開催により、そうした成果が着実なものとなり、心の豊かさや潤いのある生活を実感することができ、国際社会から真に尊敬される、文化芸術の薫り高い魅力的な地域づくりにつながっていきます。

2 開催目的

○　新たな芸術の創造･発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。

○　現代芸術等の普及･教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。

○　文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

これら３つの開催目的のもとに、芸術関係者、県民、NPO･ボランティア、企業、市町村等と幅広い連携･協働を図りつつ、国際芸術祭の成功をめざします。

Ⅱ 主催者、開催時期、会場等

1 主催者

愛知県、関係自治体、経済界、文化芸術団体等で「あいち国際芸術祭（仮称）実行委員会」を組織します。

2 開催時期

初回は、2010 年(平成 22 年)の 8 月中旬から 10 月末までを開催期間とし、以降、3 年毎の定期的な開催をめざします。

3 会場等

○　愛知芸術文化センターを拠点とし、同センターに隣接する都市空間など、まちの中への展開を検討します。

○　様々な文化芸術施設等との連携を検討します。

〈愛知芸術文化センター（栄施設）の概要〉

（概　　観）

（2 階から 12 階まで吹き抜けるホール･フォーラムⅠ）

県　美　術　館	美術館展示室 8 室、ギャラリー 10 室
県 芸 術 劇 場	大ホール 2500 席、コンサートホール 1800 席、小ホール 282 席、リハーサル室
県文化情報センター	アートプラザ、アートライブラリー、アートスペース
規　　模	地上 12 階、地下 5 階、高さ 58m 敷地面積 18,173 ㎡、延床面積 110,527 ㎡

Ⅲ　事業構想

1 展開方向

愛知芸術文化センターを拠点として、同センターの美術と舞台芸術の複合機能を活かした新しい国際芸術祭のスタイルを世界に発信し、愛知らしさをアピールしていきます。

世界に向けた“愛知発”の創造･発信とともに、様々な普及･教育の取組や県民が親しみやすい祝祭的な展開を図ります。

国際芸術祭の展開に当たっては、様々な文化芸術団体、企業、市町村等や文化芸術施設、更には、愛知県立芸術大学を始めとする芸術系大学等の教育機関などとの連携･協働を図ります。

(1) 創造･発信

初回の 2010 年は、美術部門の現代美術を基軸としますが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、舞台芸術部門の音楽、舞踊、オペラなども併せて、創造･発信の展開を図ります。

(2) 普及･教育

美術、舞台芸術などの部門で、幅広い層を対象にした様々な普及･教育プログラムの展開を図ります。

(3) 祝祭的展開

文化芸術を軸とした様々な交流・創造活動との連携を通じて、祝祭的な賑わいや盛り上げを図ります。

2　主な展開内容

(1) 創造･発信

〔美術（展覧会）〕

芸術監督の企画による絵画、彫刻、インスタレーション、映像など現代美術作品の展覧を行います。

○　世界の現代美術の最先端の動向や作品を紹介するとともに、「面白い」展開や「印象深い」展開、また「親しみやすく分かりやすい」展開を工夫します。

○　愛知芸術文化センターと他の美術館等文化芸術施設との連携を図ることにより、作品の展示に多様性を持たせることなどを工夫します。

〔舞台芸術（公演）〕

質の高い舞台芸術の公演を行います。

○　愛知芸術文化センター 文化情報センターや(財)愛知県文化振興事業団などの事業を活用し、コンテンポラリーダンスやプロデュースオペラなどの創作・公演を行います。

○　愛知芸術文化センターの機能を活かして、舞踊、音楽、美術等の複合した舞台芸術の創作･公演を行います。

○　民間主催の国際的な文化芸術事業などとの連携を検討します。

〔その他〕

現代美術や舞台芸術に関する国際セミナー等の開催などを検討します。

(2) 普及･教育

愛知県立芸術大学等の芸術系大学などとの連携の下、愛知県が実施してきた「あいち子ども芸術大学」や「新進アーティスト育成支援事業」の成果や蓄積を活かしながら、普及･教育プログラムを展開します。

○　現代美術作品の公開制作や協働制作、作家等による若手芸術家･学生･子ども等への鑑賞指導、制作指導、作品解説などを検討します。

○　出演者等による若手芸術家･学生･子ども等への鑑賞指導、実演指導、演目解説、リハーサルや舞台装置の公開などを検討します。

(3) 祝祭的展開

美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で、公募方式等により、県民に親しまれ、祝祭的な賑わいや盛り上げを図る事業の実施を検討します。

3 展開イメージ

美術部門 ⟷ 創造性・発信性 ⟷ 舞台芸術部門

［会期］　2010 年 8 月中旬～10 月末まで
［会場］　愛知芸術文化センターを拠点に文化芸術施設等と連携

現代美術の展覧会

・芸術監督の企画による絵画、彫刻、インスタレーション、映像など現代美術作品の展覧

など

複合舞台芸術

・舞踊、音楽、美術等の複合した舞台芸術

（愛知芸術文化センターの複合機能を活かした展開）

コンテンポラリーダンス　など

・愛知芸術文化センター　文化情報センター事業の活用　など

プロデュースオペラ、コンサート　など

・(財)愛知県文化振興事業団事業の活用　など

バレエ、ダンス、コンサート　など

・民間主催の国際的な文化芸術事業などとの連携　など

普及・教育プログラムの展開

・各部門において、文化芸術の普及・教育の視点を重視した展開

（あいち子ども芸術大学、新進アーティスト育成支援事業の成果・蓄積の活用、芸術系大学との連携　など）

市町村、民間との連携事業

・市町村、民間美術館・団体の展覧会等との連携

・市町村、民間ホール・団体の公演等との連携

など

・現代美術に関する国際セミナー

・舞台芸術に関するセミナー等

祝祭的な賑わいや盛り上げを図る取組

公募方式等による賑わいや盛り上げを図る事業を検討（様々な文化芸術団体・施設等との連携）

祝祭性

［凡例］

□ →新規事業

（白抜き） →既存事業の活用（一部新規を含む）

Ⅳ　推進体制

今後、平成20年6月頃を目途に運営主体を立ち上げ、芸術関係者、県民、NPO･ボランティア、企業、市町村等と幅広い連携･協働を図りつつ、構想の具体化を図ります。

1 運営主体(主催者)

地域が一体となって国際芸術祭を創り上げる観点から、愛知県、関係自治体、経済界、文化芸術団体等からなる「あいち国際芸術祭(仮称)実行委員会」（以下、「実行委員会」という。）を運営主体(主催者)とします。

2 芸術監督

国際芸術祭の学芸業務の最高責任者として、芸術監督を配置することとし、実行委員会がこれを選任します。

なお、初回の国際芸術祭では、現代美術を基軸とすることから、美術部門の監督を選任します。

あいち国際芸術祭(仮称)基本構想

平成 20 年 3 月
愛知県

〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号
県民生活部文化芸術課企画グループ
TEL:052-954-6184 (ダイヤルイン)
FAX:052-972-6075
E-mail:bunka@pref.aichi.lg.jp